

平成 28 年 8 月 31 日	<b>病虫害発生予報</b> <b>9 月号</b>	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

**防護装備（マスク・保護メガネ・防除衣）を正しく着用しましょう**  
**～平成 28 年度茨城県農薬危害防止運動期間中（6/15～9/14）～**

＜ 目 次 ＞

<b>I. 今月の予報</b>	
<b>【注意すべき病虫害】</b>	
大豆：カメムシ類	1
サツマイモ：チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）	1
共通害虫：オオタバコガ	2
<b>【その他の病虫害】</b>	
大豆，ナシ，ブドウ，果樹共通，秋冬ハクサイ，秋冬ネギ，夏秋ナス，共通害虫	3
台風の接近・通過後の農作物の被害防止に向けた技術対策について	4
<b>II. 今月の気象予報</b>	<b>5</b>
<p style="text-align: center;">詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所    Tel : 029-227-2445 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/</a> フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報  
【注意すべき病害虫】

大豆

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、吸実性カメムシ類の寄生虫数（25株あたり）は平年よりやや少ない（本年値0.2頭、平年値0.5頭）。
- ② 8月第4半旬までの予察灯（龍ヶ崎市）への総誘殺数は、イチモンジカメムシが平年よりやや多く（本年値146頭、平年値67頭）、ホソヘリカメムシが平年並（本年値5頭、平年値4頭）である。

[防除上注意すべき事項]

- ① カメムシ類の防除適期は莢伸長終期（開花20～30日後）～子実肥大中期（開花30～45日後）頃である。発生が多い圃場では、莢が伸長する頃から7～10日ごとに3回以上防除する。
- ② カメムシ類の成虫は子実を加害しながら、葉や莢に産卵する。卵からふ化した幼虫も子実を加害しながら成長するため、幼虫の発生状況にも注意する。
- ③ 薬剤は、葉だけでなく莢によくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。特に、圃場の周縁部はカメムシ類の生息密度が高い傾向にあるため注意する。

サツマイモ

1. チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害葉率（本年値19.6%、平年値20.3%）、発生地点率（本年値100%、平年値99%）ともに平年並である。
- ② 8月下旬現在、ナカジロシタバの第三世代幼虫によると思われるつる先の被害を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① ナカジロシタバは、第三世代幼虫の被害が最も大きい。老齢幼虫になると食害量が多くなるので、若齢～中齢幼虫の時期（丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期）の防除に努める。
- ② 薬剤は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

## 共通害虫

### 1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近1か月間（7月21日～8月20日）のフェロモントラップへの誘殺数は、土浦市、龍ヶ崎市、筑西市で平年並である。
- ② 8月下旬現在、大豆およびナスの一部圃場で発生を確認している。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ② 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。なお、防除適期はフェロモントラップへの誘殺数が増加したときなので、誘殺状況（病虫害防除所ホームページ）を参考にする。
- ③ 薬剤は、葉裏や株元にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ レタスやハクサイ等では、結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため、定植時および結球始期の防除を徹底する。
- ⑤ トマト、ピーマン等では収穫終期まで加害が続くので、発生しているハウスでは防除を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
大豆	紫斑病	発生量：－	防除適期は開花期の 20 日後頃である。開花期から成熟期までに連続した降雨がある場合は、開花期の 30 日後頃に追加防除を行う。
	葉焼病	発生量：やや多い	8 月下旬現在， 平年よりやや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：やや多い	8 月下旬現在， 平年よりやや多い発生である。
ナシ	黒星病	発生量：－	8 月下旬現在， 平年並の発生である。多発した圃場では， 秋季防除を徹底する。特に， 徒長枝に薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ハダニ類	発生量：やや多い	8 月下旬現在， 平年よりやや多い発生である。多発している圃場では， 秋季， 休眠期および翌春の防除を徹底する。
	ナシヒメシンクイ	発生量：平年並 ～やや多い	8 月下旬現在， 平年並～やや多い発生である。早生・中生品種に被害果が目立った場合は， 晩生品種を対象に， 収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。
ブドウ	褐斑病	発生量：平年並	8 月下旬現在， 平年並の発生である。多発した圃場では， 収穫後の防除を徹底する。病原菌の越冬を防ぐため， 早期に落ちた葉は回収し， 適切に処理する。
	べと病		
	さび病	発生量：平年並	8 月下旬現在， 平年並の発生である。多発した圃場では， 収穫後の防除を徹底する。
	晩腐病	発生量：－	8 月下旬現在， 平年並の発生である。病原菌の越冬を防ぐため， 罹病した果梗の切り残し， 結果母枝， 巻きひげ等は剪除し， 適切に処理する。
果樹共通	果樹カメムシ類	発生量：平年並	8 月下旬現在， 平年並の発生である。
ハクサイ 秋冬サイ	軟腐病	発生量：－	台風等の強風を伴う降雨の後には， 防除を徹底する。
秋冬ネギ	さび病	発生量：やや多い	8 月下旬現在， 平年よりやや多い発生である。発生を認めた圃場では， 初期防除を徹底する。
	べと病		
	アザミウマ類	発生量：平年並～ やや少ない	8 月下旬現在， 平年並～やや少ない発生である。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
夏秋ナス	うどんこ病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
共通害虫	ハスモンヨトウ	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，サツマイモでは平年並，大豆では平年より少ない発生である。 直近の1か月（7月21日～8月20日）のフェロモントラップへの誘殺数は常陸大宮市，水戸市，笠間市，鉾田市で平年よりやや多く，龍ヶ崎市，土浦市で平年並，筑西市で平年より少ない。

台風の接近・通過後の農作物の被害防止に向けた技術対策について

台風の接近・通過により，病害虫の増加など農作物への影響が心配されます。露地作物については，病害虫対策を含め被害防止や被害軽減に向けた対応をお願いします。

【大豆】

- ・速やかな排水に努める。特に水田に作付けした大豆は畦畔を切るなどして排水に努める。
- ・茎疫病，葉焼病等の発生が懸念されるため，防除対策に努める。

【露地野菜】

- ・圃場が浸水，冠水した場合は明きよを掘るか，ポンプによる汲み上げなどできるだけ早期の排水に努めるとともに，マルチ栽培ではマルチをめくるなど，圃場の乾燥を促す。
- ・茎葉に付着した泥をきれいな水で洗い流し，損傷した茎葉を取り除く。
- ・圃場の乾き具合を見て早めに中耕，培土を行い，発根を促し草勢の回復を図る。
- ・中耕・培土の際，草勢を見て追肥や液肥の葉面散布を行う。
- ・細菌病等の発生が懸念されるため，収穫前日数に注意して薬剤防除を実施する。

※詳細は茨城県農業総合センターホームページ

(<http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/cont/>) をご参照ください。

## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 8月27日から9月26日)

気象庁(8月25日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	30	60
	降水量	関東甲信全域	10	30	60
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

#### [概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

<1週目の予報> 8月27日(土曜日)から9月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<2週目の予報> 9月3日(土曜日)から9月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率70%

<3週目から4週目の予報> 9月10日(土曜日)から9月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年高い確率50%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類\* (FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病虫害発生予報5月号(平成28年4月28日発表)の防除所レポートを参照してください。